



飛んでみよう！
飛んで行け！



「あさが来た」主題歌「365日の紙飛行機」より

NEWS LETTER 遊文通信

2016年4月発行

59

— 自費出版あれこれ その1

遊文舎の関連会社、
株式会社ユニウスは
遊文舎の前身でもあります。
その最近の事例から
自費出版の周辺を
ご案内したいと思います。



1. どんどん消える町の本屋さん

私の住む十三界隈で唯一の遠野書店が昨年10月閉店しました。遊文舎の周辺でも本屋さんとはとくに消えて、コンビニで雑誌を見かける程度になってしまいました。

出版不況と騒がれて久しく、商業出版の売上はピーク時の1996年の半分に激減し、町の本屋さんもどんどん廃業しています。

一方、図書館の貸出数やブックオフの販売冊数は伸びており、読書人口が減っているわけではないとの分析のなかで、自費出版市場は相変わらず活況を呈しています。商業出版物の発行点数より自費出版物の方が多いというデータもあります。

商業出版と自費出版のちがいを以下にまとめてみました。

	特徴	費用負担	流通
商業出版	売れることを前提	出版社の費用で出版。著者は著作権料を受け取る	日販・トーハンを通して全国の書店に流通するが、返品率は40%ともいう
自費出版	著者が無名のため、売れると予想できない	本人が費用を全額負担し出版社から出す	流通は著者本人で行うのが原則。出版社により不透明な商法もある
個人出版	私家版	本人	流通＝取次には委託しない

2. 「紙」があつての「電子」

商業出版の「紙書籍」凋落と、「電子書籍」の隆盛は対立的に見られたりしますが、そうではなく、著者が読者に届けたい情報を表現するのに適した媒体、適した形、それが紙だけではなく電子に広がったという進化＝変化の一つだと考えます。今後も様々な形態に進化していくだろうと期待できます。

紙・電子の両者が機能しあい連携する事で、読者と本との出会いのチャンスが増えていく、特に手軽に出版できる自費出版市場でそんな状況が生まれてきています。講談社は紙と電子の同時発売を始めましたが、「紙があつての電子。まずは紙が売れることが基本戦略である」と宣言しています。

「紙書籍」がなぜ無くならないかという、基本的に紙と電子では、魅せ方や役割が違うのです。画集や詩集に限らず、紙の手触りで醸し出される世界は豊穡で、電子ではかなわないのです。読者層が限定されず、機器の陳腐化などの負荷からも自由な「紙書籍」。アーカイブでもツールは紙保存なのです。

3. 感動を形あるものにする

さまざまな形の感動を活字によって「形あるもの」にし、それをまだ見ぬ読者に渡して共有すること、その架け橋が自費出版の原点です。

自分の想いや経験をこの世に作品として残すことによって、人と人をつなぐ新しい出会いが生まれます。子供たちは読書を楽しむことにより、多様な価値観を知り、広い世界観に目覚め、豊かな人生観を得ていくことができるのですから。

団塊の世代が原動力といわれる自費出版。一般に思われるほど高嶺の花ではありません。

次号では、皆さんの周辺の方、自分を見つけない、人と繋がりたいと何か書き溜めておられる方へ、♪自費出版へ飛んでみませんか♪とお誘いしたいと思います。

(株式会社ユニウス 三宅由美子)



スタッフ趣味の 弾き語り

～大江景子・近藤真二編



みなさんこんにちは！ひさしぶりにスタッフの趣味の紹介をさせていただきます。なかなかの腕前ですので声をかけてあげてくださいね。
(ヒーロー)

休日は大阪市内を中心に京都や神戸のライブバー、カフェで歌っています。

使う楽器はモーリスのアコースティックギターとGODINのエレガット。モーリスのアコギは野外や動きの多いライブ時に使用します。ネックが細く、ボディも少し小さめ、そして軽い！乾いた音と弾き易さが気に入っています。エレガットはエレクトリック・ガットギターの略で、アンプやPA装置に繋いで音を出す、ナイロン弦のギターです。GODINはどんな機材に繋いでも音が良い！ナイロン弦特有の柔らかい音が耳あたりが良く、昼間のカフェライブには必須です。と、語り始めると止まらないので、相棒たちを連れて参加したライブの紹介をしようと思います。

2/27 (土) @十三 RAINCOAT

会社近くのバーで、この日は常連さんのお誕生日のお祝いイベントです。(といいつつ、みんな飲みたいだけなのかも……) 私はオリジナル2曲とカバー2曲、Fairground AttractionのPerfectとCountryRoadを歌いました。この日は営業の先輩近藤さんもクラリネットと



オールラウンドの近藤さん。
クラリネット(上・右端)と
ピアノ(右)



ピアノで参加。この近藤さん、本業はベースですがギターもピアノもクラリネットも出来るという強者です。あ、違った、本業は印刷業ですね！とにかく、仕事中の10倍格好良いので、近藤さんをご存知の皆様にはぜひ見て頂きたい姿です。あ、違うんです、仕事中でも格好良いですよ、もちろん!!

2/28 (日) @難波 ArtYard.studio

演劇と弾き語りのコラボイベントでした。コラボの仕方は様々で、私の組は劇団の方がメインでお芝居し、歌うたいの役で参加する形をとりました。つまり、セリフあり!! 高校以来の演劇で非常に緊張しました。しかも、舞台上での動きが多いのでPA機器には繋がらず、久しぶりに生音でのライブです。成功には遠く及びませんが、こんな体験ができるのも音楽のおかげだな～と感激でした。



弾き語りの面白いところは、ずばり出会いの多さです。共演者さん、ス

アコースティックギターの大江

タッフさん、お客さんと意気投合して一緒に歌ったり、知らない楽器を触らせてもらえたり、イベントを一緒に立ち上げたり、今回のように会社の先輩と合わせたり、演劇したり、とにかく毎日が目まぐるしくて、飽きることがありません。「なんだかモヤモヤするな」と思っても、曲を作ったり歌ったりすればすぐに忘れてしまいます。それに、歌うとすっきりして楽しい気分になりますよね。楽器が弾けなくても、歌が下手でも、たくさんの楽しみ方があるのが音楽です。ぜひ、自分に合った楽しみ方を見つけてください。

(営業・大江景子)

● 編集後記 ●

桜が咲き、散っていく季節になりました。毎年お花見に行こうと考えていますが、週末は雨が降ったり寒の戻りがあったりとなかなか気持ちよくお花見に出かけられません。今年も同様に、平日はとてもいい天気が多く暖かいのに、週末は寒いもしくは、平日の荒天で満開の桜が週末までもたない。見られる期間が少ないので、余計にきれいに感じるのかもしれませんが、一度は絵に描いたような満開の桜の木の下でお花見をしてみたいと夢見しています。
(ぼっしー)